

15 京都バイオシティ構想の推進について

(文部科学省・経済産業省・農林水産省・厚生労働省)

ライフサイエンスは、健康、食料、環境・エネルギーなど、人類が抱える深刻な諸問題の解決に寄与できる科学技術であり、我が国が科学技術創造立国を目指すうえで集中的に資源を投資する重点分野の一つとしても位置付けられております。

本市におきましても、平成 14 年 6 月に「京都バイオシティ構想」を策定し、この分野に関する多くの大学や研究機関等の厚い学術的集積、独自の強みを発揮し国際的に活躍する先進企業群、さらには、幾多のベンチャー企業を輩出してきた風土や仕組みを生かして、革新的な次世代医療を実現するナノメディシンの拠点形成プロジェクトをはじめ、産学公の緊密な連携によりライフサイエンスの振興につながる研究事業を推進しております。

つきましては、関西圏のライフサイエンスの国際拠点形成の一翼を担うこの取組のうち、次の事項についての格段の御配慮を要望します。

要望事項

- 1 「医学・工学分野の融合」など産学公共同により産業化を目指す研究開発に対する支援
- 2 移植医療の研究・臨床・研修の充実を目指す中核的施設の整備に向けた調査・研究の推進

主な要望先：文部科学省（科学技術・学術政策局基盤政策課地域科学技術振興室，研究振興局ライフサイエンス課）

経済産業省（製造産業局生物化学産業課

農林水産省（農林水産技術会議事務局先端産業技術研究課）

厚生労働省（健康局疾病対策課臓器移植対策室）

本件に関する連絡先：産業観光局 スーパーテクノロジー推進室 担当課長 北村康二 TEL075-222-3434

保健福祉局 保健衛生推進室 健康増進課長 岡田安正 TEL075-222-3429

京都バイオシティ構想の推進状況

1 重点分野と研究開発プロジェクト

(1) 医学と工学の融合分野

プロジェクトテーマ

医学・工学分野の融合による高次生命現象の解明や高度医療等に資する最先端技術の研究開発及び事業化

- 「細胞・生体機能シミュレータ開発プロジェクト」の推進（15年9月～）
- 「ナノメディシン拠点形成の基盤技術開発」の推進（17年1月～）

(2) 環境分野

プロジェクトテーマ

生分解性プラスチックをはじめとするバイオテクノロジーを活用した生物機能活用型循環産業システムの構築

- 「生分解性プラスチックを活用した資源循環 京都モデル 実証実験」の推進（15年8月～）
- 「バイオマス繊維／生分解プラスチックの界面制御型複合材料の開発」成果報告書の作成（16年3月）

(3) 地域資源を活用した分野

プロジェクトテーマ

蚕の工業的飼育システムを利用した有用物質生産工場化とその工業的利用に関する研究開発

- 「蚕を用いた有用タンパク質ニーズ調査等事業 報告書」の作成（15年3月）

2 関連研究機関誘致（整備）の検討

(1) 「バイオインキュベート施設」の整備

企業家、ベンチャー、中小企業等に対して、先端的なバイオ研究に対応できる研究室を提供するとともに、京都バイオシティ構想における中核施設としての役割を果たすインキュベート施設を整備する。

- 中小企業基盤整備機構による「クリエイション・コア京都御車（仮称）」整備事業の採択。（16年11月）
- 酒蔵バイオVILの設置。（14年6月～17年3月）
- 財団法人京都高度技術研究所バイオVILの設置。（14年6月～17年3月）

(2) 「高次生体機能医工系研究センター（仮称）」の整備

医工連携による生体遺伝子ネットワークの分析・解析技術の研究開発、近未来の高度医療の実現に寄与する医療機器の研究開発等の推進拠点を整備する。

3 目標年次2010年における数値目標

- ・バイオ関連産業の売上高 1兆円
- ・バイオ関連特許出願数 年間500件
- ・大学発バイオベンチャー創業数 60社（累積）